

バイオマス活用施設の概要

作成日：2007年11月28日

作成者：(株)循環社会研究所

	<p>【施設名称】 ホタテ貝殻融雪剤製造施設</p>
	<p>【事業主体】 青森エコサイクル産業協同組合</p>
	<p>【所在地】 青森県青森市</p>
	<p>【運転開始年】 平成19年3月</p>
<p>原材料</p>	<p>ホタテ貝殻</p>
<p>生産物（種類）</p>	<p>ホタテ貝殻を活用した非塩素系凍結防止剤（粒状・液状）</p>
<p>利用方法</p>	<p>道路等の凍結防止剤 （環境に優しく、潮解性に優れ、即効性、持続性を有する）</p>
<p>導入目的・経緯</p>	<p>青森市では、農林水産省の「バイオマスの環づくり交付金」を利用して、ほたての貝殻を活用した凍結防止剤の商品化に向け、製造施設の建設に着手している。</p> <p>この凍結防止剤は、青森市にある県工業総合研究センターが平成13年から研究開発を進めてきたもので、液状と粒状がある。これまで国道や空港での散布実験では、道路にまく塩化カルシウムや空港の尿素などと同じ凍結防止効果がみられた。</p>
<p>設備仕様</p>	<p>建物（工場、倉庫、事務室、プラント一式、トラックスケール、ホイールローダー等）</p> 

稼働状況	年間処理量：6,000 トン 年間販売量：3,000 トン
経済性関連データ	
導入効果	青森県内では、年間約 5 万トンのほたての貝殻を産業廃棄物として処理しているが、凍結防止剤として生まれ変わることで、新たな地域振興に役立つと期待されている。また、従来の凍結防止剤の中に含まれている尿素が河川等の汚染を招くとして米作りへの影響が懸念されており、環境問題の解決にも役立つと考えられる。
運営上の課題	
備考・参考資料	現在は、融雪材以外の用途開拓が検討されている。(カドミ米の除去材や化粧品原料など) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「新たなバイオマス・ニッポン総合戦略にむけて～東北地域におけるバイオマスの取組～」(平成 18 年 10 月),東北農政局発行 を元に情報追加(平成 19 年 11 月) ・ 青森県へのヒアリング及び同県ホームページ (http://www.pref.aomori.lg.jp/sozo/shinshohin/nintei/doboku/ekosaikuru.htm)